

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察注意報第1号

- 1 病害虫名 果樹カメムシ類
- 2 対象作物 果樹全般（もも、なし、かき、ぶどう、みかんなど）
※特に7月はおもも、なし、かきで被害をうけやすい。
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) 今年度の6月下旬におけるチャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺頭数が、全ての果樹カメムシ類フェロモントラップ調査地点において、平年値の3.0～4.3倍と大きく上回った（下図）。
 - (2) 大阪管区气象台の近畿地方1か月予報（6月30日発表）では、向こう1ヶ月の気温は高い確率が50%となっており、果樹カメムシ類の果樹園への飛来が多くなると予想される。

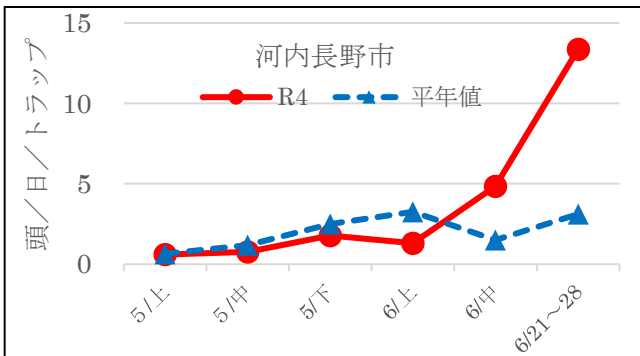
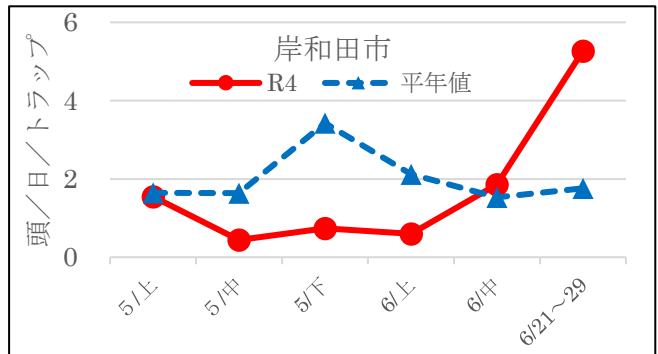
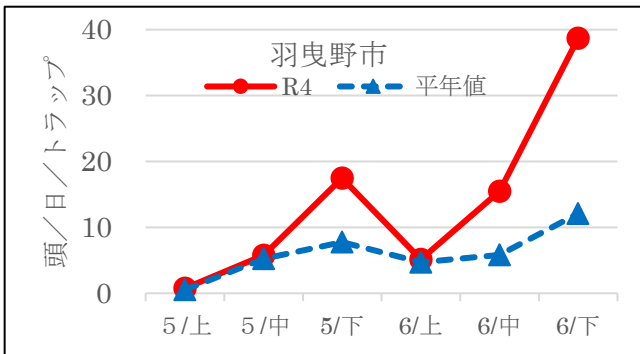


図 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺頭数

6 生態

- (1) 果樹を加害する果樹カメムシ類には、チャバネアオカメムシ（写真1）、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等がある。大阪府内で確認される果樹カメムシ類の大半はチャバネアオカメムシである。
- (2) 果樹カメムシ類の主なえさは、夏期のスギやヒノキ等の球果である。果樹園でも産卵は行われるが、成虫までは発育しない。スギ等の球果が多い年は夏に個体数が増加し、えさが不足すると秋に果樹園に飛来して果実を吸汁し、落果や奇形果等の被害が増える。また、越冬密度が高くと、春から夏にかけて果樹園に飛来して果実を吸汁し、落果や奇形果等の被害をもたらす。
- (3) ももなどの核果類や、なし、かき等が被害を受けやすい（写真2）。多発するとぶどう、かんきつ類にも被害が及ぶことがある。
- (4) 袋かけをすると被害を軽減できるが、果実の肥大に伴って果実袋と果実が密着すると、果実袋の上から吸汁されることもある。
- (5) 果樹カメムシ類の果樹園等への飛来は日没後の2～3時間が中心である。



写真1: チャバネアオカメムシ

※(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 提供



写真2: ももの被害

(果実表面がデコボコになる: 丸印が被害箇所)

※大阪府植物防疫協会 提供

7 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の発生量や時期には地域や園地で差があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。薬剤散布後も園内を確認し、再度飛来を確認した場合は、追加の散布を行う。薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。（別添表「果樹カメムシ類の防除薬剤例」参考）
- (2) 果樹カメムシ類に有効な薬剤は、有機リン系薬剤、ピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤等である。多発時には、残効性が比較的高いピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤を中心に散布する。
- (3) ピレスロイド系薬剤は果樹カメムシ類への効果は高いが、天敵類への影響も大きく、連用するとハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるため、なるべく連用を避ける。
- (4) 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (5) チャバネアオカメムシに対しては、黄色灯は忌避効果があるため、設置している園地では早急に点灯する。ただしチャバネアオカメムシ以外には効果がないため、光源近くや園内でクサギカメムシやツヤアオカメムシを確認した場合は薬剤散布を行う。
- (6) 果樹園全体に目合い4mm以下のネットを被覆することで侵入を阻止する。

<別添> 果樹カメムシ類の防除薬剤例

作物	薬剤名	系統 (IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用 回数
もも	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000～ 4,000倍	収穫前日まで	3回以内
	アーデント水和剤	ピレスロイド(3A)	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
	テッパン液剤	ジアミド (28)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
かき	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	アーデント水和剤	ピレスロイド(3A)	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アディオン乳剤	ピレスロイド(3A)	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで	5回以内
なし	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	アディオン乳剤	ピレスロイド(3A)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
ぶどう	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2,000～ 4,000倍	収穫前日まで	3回以内
みかん	アディオン乳剤 (かんきつ)	ピレスロイド(3A)	2,000倍	収穫14日前まで	6回以内
	スミチオン乳剤 (みかん)	有機リン(1B)	1,000倍	収穫14日前まで	5回以内
	スミチオン乳剤 (かんきつ(除みかん))	有機リン(1B)	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 (かんきつ)	ネオニコチノイド (4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

・登録は令和4年7月4日現在

・最新情報は農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システムで確認してください。

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。